

回覧

<アディショナル・エディション~Additional Edition >

令和元年(2019年)第五回 定例役員会 2019年5月4日(土)

~2019年5月15日(水)作成~

< 館長報告 > 追加分

館長 土井 承夫 (どいよしお)

現時点で公民館新築計画はスケジュール通りに進んでいます。このままで行くと新公民館は予定通り来年2020年(令和2年)12月末日までには完成します。本編でお伝え出来なかった4月の<行動日誌>と<ちょっと一服コーナー>を掲載致します。

<館長の行動日誌>

(4月分)

4月2日(火)	福寿クラブ(福庭老人会)定期総会と懇親会に出席。
4月4日(木)	法人化が許可されたので以後の税金関係処理のため市役所税務課へ。
4月5日(金)	上井保育園入園式に来賓として出席。
4月6日(土) ~9日(火)	私費で九州・小倉城~宇佐神宮~湯布院温泉~蒼の洞窟~中津城 ~福澤諭吉旧邸・同記念館~門司港レトロ等を見学。
4月11日(木)	今年の公園整備補助金¥97,000-を申請する為、河北中央公園他の草木伐採前の状況を写真撮影。
4月13日(土)	午前10時 総事用の真砂をダンプが3号公園に運んできたので降ろす所を立ち会った。午後は上井公民館で館長会に出席した後、未来中心で行われた倉吉市自治公民館連合会総会に出席。220余りの公民館関係者数百人の前で少し長めに意見を述べさせて頂いた。
4月14日(日)	公民館主催の総事に参加。各班の作業状況も拝見させて頂いた。
4月17日(水)	公民館新築計画の参考にさせて頂くため、お隣「河北町・海田西」の平本良明 館長に同公民館を案内してもらい沢山の参考になるお話を伺った。今月の館長報告・本編で報告済。
4月19日(金)	午前中、市役所税務課で新公民館固定資産税減免申請手続きの2回目。夜、7時から公民館で日交バス運行路線変更に関わる説明会を市役所企

	画産業部企画課から内川課長、安道主任、田中担当にお越し頂き開催した。
4月24日（水）	午後、福寿クラブ（福庭老人会）理事会に出席。



～ 館長のちょっと一服コーナー ～

一昨年前の平成 29 年 10 月 7 日付けの私の公民館レポート「48 年前の河北中 2 年生の作文」で、皆様にもお世話になった私の母が半世紀近くも大事にしまっていた私の中学時代の作文のお話をしました。そこには母親としての子供に対する言葉では表現できない思いがあったはずであり、私自身もそういう気持ちを大切に自分の子供に接しなければとも書きました。

最近、書類を整理していたら母と同じ 5 年前の同じ年に亡くなった私の父、小中学校の音楽の教員だった 土井 政雄が定年退職目前にして書き綴った「私の教職人生回顧文」が出てきました。存命中は自分の子供たちにほとんど仕事の内容を語らなかった父の教員人生を垣間見る事ができ、更にその文章が専門だったクラシック音楽の交響曲の楽章形式に託して書かれているところに一種の感動と面と向かって言えなかった父への尊敬の念を抱くことになりました。その文章を編集することなくそのまま掲載させていただきます。

< 第一、第二、第三、第四楽章 >

昭和 62 年（1987 年）1 月
東伯・八橋小学校 土井 政雄

私の教職人生も終焉に近い。五分前のリンが鳴る。思いつくままに過ぎ来し方を、私の好きな音楽に託して綴ってみようと思う。交響曲の楽章にならって。

第一楽章（二十代） 終戦後の廃墟、混迷、栄養失調から抜け出そうと懸命の努力をする。音楽では、普通、アレグロ（快速に）の早い速度で始まるのであるが、私の教職人生第一楽章は全く逆で、足を引きずるような速さで始まり片田舎の小学校で教科書やノートのない学校生活を過ごした。リンゴの歌や、小屋の灯、君の名は、長崎の鐘などの歌謡曲で青年団と遊んだ時代である。

第二楽章（三十代） 学習指導要領により、学習らしい学習が始まった。どうしてか、中学校の音楽教師として過ごす事になり、音楽へのとりこになる。

この頃の教え子が既に四十半ばになっている。いい生徒ばかりだった。今では楽しい中学校の思い出となる。一方、組合活動の厳しい時代でもあった。ストまたスト、昭和三十五年の学テ闘争でその極みに達し、機動隊と激突。即刻、戒告処分。まことに騒々しい時代であった。

第三楽章（四十代） 再び小学校に戻る。倉吉市立明倫小学校に赴任。同校円型校舎につとめる。同僚、先輩、管理職の方々に恵まれ、ここで小学校教育の何たるかを存分に勉強させてもらった。特に H 校長には、八年間もつかえることができた上に、絶大なる薫陶をうけたこと、大恩人として終生忘れ得ないであろう。

第四楽章（五十代） 管理職になるには、一番むずかしい我々の年代であった。どうにかそのポストを与えられたが、管理職受難の再来で、むずかしい日々の連続である。校長になってからは、急ピッチで毎日が過ぎていく。

交響曲の終楽章は、大体速度をはやめて終わっていくのが常である。が、あまりにもはや過ぎる昨今である。 (おわり)



<後記> これを書いた年の 3 月に父は定年退職した。そしてその 2 年後の平成元年（1989 年）から平成 4 年（1992 年）までの 4 年間、福庭自治公民館長を拝命し皆様のお力沿いを持ってその職を勤めさせて頂いた。私はその 30 年後に父と同じ歳でその館長を拝命し現在に至っている。偶然ではあるが何か運命的なものを少し感じる。私は長く県外で勤務していたので勿論、父の館長としての姿は観ていないが、家に残された公民館関係資料には父の自筆の文字がギッシリと詰まっている。今、一緒に公民館の仕事を担って頂いている多くの方々のお名前も登場する。

この父の思いを来年完成する新しい公民館にも残したい・・・父が若い頃、苦勞してお金を貯めて月賦で購入した一台の古いピアノが使われないで我が家に置いてあります。完全調律を施した上で、このピアノを新公民館に寄贈し 2 階の大会議室に置かせて頂きたい・・・ピアノが奏でる旋律が新たな地域コミュニティーの輪を少しでも広げてくれることを願って・・・・・・・・。

以上